



*The celebration of
our 20th anniversary
as sister cities*



**JIEA 2015年度
米国バンクーバー市訪問団文集**



目 次

目次・行程表	2
団長 辻 文明	3
池井戸 光代	5
上土 新一郎	6
大平 歩	7
岸本 秀子	8
近藤 好廣	10
杉井 和男	11
杉井 正子	13
土居 一豊	14
西田 和子	16
三好 榮子	18
森澤 博光	19
渡辺 理一	20
Proclamation	22
訪問団名簿・あとがき	23



ポートランド空港にてヘーゲンセンさん、ジャンさんの出迎えを受ける



米国バンクーバー市訪問団 行程表

2015年7月2日～8日（9日）

5泊7日間（6泊8日間）

- 2日（木） 結団式
伊丹空港～羽田空港
成田空港～ポートランド空港
ワッキーナ滝、マルトノマ滝、
ボンネビル・ダム見学など
ウエルカム・レセプション
- 3日（金） バンクーバー砦・三吉記念碑見学
バンクーバー・バラック見学
市立図書館見学
コミュニティー・レセプション
ダウントウン“アート・ウォーク”
親善大使フジオカ・ファミリーとの
再会
- 4日（土） ポートランド観光
20周年・独立記念祝賀イベント
オープニング・イベント（姉妹都市
訪問団の紹介）
オフィサーズ・ロー見学、花火見学
- 5日（日） ファーマーズ・マーケット
ベサニー・ワイナリー
バンクーバー・ロータリー会員宅へ
ホームビジット
- 6日（月） クラーク・カレッジ見学
バンクーバー・ロータリー会員と
会食
ウェストフィールド・モール見学
城陽噴水の開所式、市議会と声明
- 7日（火） ポートランド空港～成田空港
予定便がキャンセルとなり5時間
遅れて出発
ポートランド空港～シアトル空港
- 8日（水） 羽田空港（川崎にて1泊）
- 9日（木） 伊丹空港

姉妹都市盟約20周年記念 バンクーバー市を訪問して 訪問団長 辻 文明

今回の訪問団は、市民訪問団15名と国際ソロプチミスト南京都8名の合計23名の大訪問団となった。

初日は、ポートランド国際空港に降りると、バンクーバー市の元市長ブルース・ヘーゲンセン氏（城陽市名誉市民）とバンクーバーロータリークラブのジャン・アサイ氏他関係者らの出迎えを受けた。

その後、空港から近くのコロンビア川沿いの全米2位の落差を誇るマルトノマの滝、ボンネビルダム等を見学した。途中廃校となった施設を再利用・再活用したレジャー施設（宿泊・レストラン・ワイン醸造所等）にて昼食をとった。

その夜は、バンクーバー市の訪問団受入実行委員会の関係者らとの歓迎レセプションに出席し、レビット市長代理のラリー・スミス氏（市議・元シティーマネージャー）、エリー・カサブ氏（実業家）、ボブ・ナイト氏（クラークカレッジ学長）、伊藤辰夫氏（信越化学）、飯島勝氏（在ポートランド領事）等との再会を喜び合った。



コミュニティー・レセプションでページ夫妻と再会

2日目は、バンクーバー砦・三吉記念碑見学及びバンクーバー砦基金によるランチレセプション、市立図書館見学。市役所ロビーにてコロンビア川経済開発協議会によるコミュニティー・レセプション、ダウタウン「アート・ウォーク」に参加した。レセプションではデビット・ページ夫妻（昨年城陽市訪問）と再会した。また、夕食には元AETフジオカファミリーも参加され懇談した。

3日目は、独立記念式典に参加しステージより紹介を受け（バンクオブアメリカ、バンクーバーロータリークラブ提供）、花火を見学（バンクーバー砦基金提供）した。

4日目は、ファーマーズマーケット見学、郊外ワイナリー見学（カサブ氏ランチ提供）、夕食については、訪問団23名が市内ロータリアン家庭及び市民有志の5家庭に4名～5名に分かれ、それぞれの家庭での夕食招待を受け市民相互の友好交流の促進を図った。

私は、ページご夫妻の自宅に招かれ夕食の接待を受けた。

ページ夫妻は、昨年、個人的なツアー旅行の自由時間に城陽市を訪問され奥田市長とも懇談された。その際、たまたま私が城陽市内案内と昼食を提供したことから今回のバンクーバー訪問時に、是非お返しをしたいと申し出られ実現したものである。ページご夫妻からは美味しい家庭料理のもてなしと日本旅行の際の写真等拝見させて頂いた。大変な日本最良のご夫妻であった。庭をリスが多く走っていたのに感激した。

5日目は、クラークカレッジ見学、バンクーバーロータリー例会出席（紹介・挨拶・インタビュー等）、バンクーバーロータリークラブとの交流事業協議、市役所でのレセプション（レビット市長挨拶。記念

品交換。奥田市長よりの親書の伝達等）、市役所敷地内における城陽噴水の開所式参列、市議会議場訪問（紹介と挨拶、インタビュー等。テレビ放映される）



城陽噴水開所式 レビット市長と

訪問中の感想として、

日本に限らず、北米も異常気象で日中気温が最高37度と酷暑で、こんなに気温が上がることはめったにないとのことでした。しかし、朝晩は20度前後で寒暖差が激しい気候で、訪問中は全日快晴でした。

私は3度目の訪問ですが、まず、緑の多い街並みに心が休まる思いがしました。何より、古い建物を大切にすること。緑と自然を大切にすること。その中で現在の生活との共存を図っていることに感心いたしました。



次に、バンクーバー市の関係の皆様への心温まる歓迎に感激いたしました。

我々訪問団の受け入れに対して、バンクーバー市の関係機関の多くの方々による受入れ実行委員会を設置して対応していただきました。この実行委員会は、市長はじめ市議会、ロータリークラブ、クラークカレッジ、コロンビア川経済開発協議会等の皆様で組織されており、地元日系企業の信越化学に協力

を呼びかけ、受入れ対応(見学施設、催しの内容、レセプション等)を協議・調整していただきました。

独立記念式典においては、私たち訪米団をバンクーバー市の友人として紹介していただきました。その後、独立記念式典のフィナーレを飾る打ち上げ花火の数の多さとスケールの大きさに感激いたしました。

今回の訪問に際して奥田城陽市長のご支援ご協力とバンクーバー市の多くの皆様の心温まる心遣いに深く感謝しております。

なお、持参した奥田市長よりの親書にもありました、秋の文化パルク城陽開館20周年に際しての姉妹都市盟約20周年記念祝賀へのバンクーバー市からの訪日の際には、今回の訪問団員一同、バンクーバー市の盛大な歓迎に対するお礼として、可能な限りのお手伝いをさせていただく所存です。

今回の訪米団については、総勢23名の大所帯であり、男性8名・女性15名、団員の年齢も24歳の若者から79歳の高齢者まで幅広い年齢層の参加がありました。帰国に際して、飛行機のトラブルから帰国が一日遅れとなり、城陽市並び団員の皆様方及びご家族の皆様には大変ご心配とご迷惑をおかけしましたが、全員元気で無事に帰国できたことが何よりであったと感謝いたしております。

ありがとうございました。



バンクーバー市議会と声明 (City Council & Reading of Proclamation)



姉妹都市バンクーバーを訪ねて 池井戸 光代

長い7月2日の旅の始まりは広大な美しいコロンビア川のミスト一杯のワッキーナ滝に生き返り(?) マルトノマ滝等の景色を楽しみました。又、滞在中は至れり尽くせりの現地スタッフの歓待や在米の日本人のボランティアの皆さんのガイドを受け英語不要(?)の快適そのものの旅でした。



信越化学提供 ウェルカム・レセプション

2日目の素朴で広大なバンクーバー砦でのすべすべしたビーバーハットの感触や市立図書館で城陽市民から贈られた書画との対面、まだ搬入作業中でしたがここバンクーバーの歴史を語るタペストリーの展示に同行されたソロプチミストの数人の方々がその制作の一部に携われた事実を知り城陽市とのかかわりの長さ感じました。

3日目の7月4日、独立記念日の素晴らしい花火も圧巻でしたが、5日目の夜7時から開かれるオープンな市議会も大変興味深いものでした。市長さんをはじめ7人の市議の方々が本職でなく本来の仕事を持っているボランティア活動だという事に驚かされました。議場は一見裁判所の法廷の様な席で市長さんがまん中に座り市議の皆様はその左右に半円のように座り、議案や提案、要求等は被告席のような処からするといったもので、同時に話の中味を筆跡スライドで公開されるというやり方にも興味ある一面でした。クラーク・カレッジの見学や取り組

みも面白く、訪米4日目に総勢23人の参加者がそれぞれ5軒のロータリアン家庭に夕食を招待されるというプログラムは素晴らしいものでした。私達4人はリンダ&ビル・スタントン夫婦の歓待を受け、ドライバーのデッキをはじめクラーク・カレッジ学長夫婦を含め5人のゲストを交えての晩餐会はさながらホームパーティの醍醐味を経験した事も忘れられない思い出になりました!

訪米中の数々のレセプションはbuffet形式で会話も楽しみ本場アメリカのパーティを体験出来た事も嬉しい思い出です。



バンクーバー・ロータリー・クラブとの会食

この姉妹都市提携20周年記念事業に向けての早くからの準備段階から携わって下さった国際交流協会の団長、辻さんを始め副団長の森澤さん、事務局の皆様、現地の多くの委員さんやスタッフ、ボランティアの皆さんに深く御礼と感謝の気持ちを申し上げます。

ありがとうございました。



マルトノマ滝
(Multnomah Falls)



ネイティブアメリカンの族長にちなんだ名を持つ全長189mのオレゴン州を代表する滝です。滝の上のラーチ山展望台まで登れる遊歩道があり、展望台からは、滝壺と雄大なコロンビア渓谷を眺めることが出来ます。

姉妹都市 「米国バンクーバー市」に触れて 上土 新一郎

人口 50 万人のポートランドのベッドタウンと位置づけられる人口 17 万人の米国バンクーバーは、緑が多く、古い建物が上手く活用されている街だと感じた。街路樹に取り付けられた花鉢への手動散水、横断歩道の信号等は人にやさしく、街中はきれいでマナーがよい。この町の人々は「人」と「環境」を中心に物事を進めているのだろうか。

ホテルの近くの住宅地を早朝に散歩している時に気が付いたことであるが、個人の住宅の敷地はゆったり広いのに駐車場がない。全て車は車道の路側帯に駐車されている。車の通行が少なく、他の車両の邪魔をすることもない。「敷地の自然環境を破壊して駐車場を造るよりは、既に人工物として存在する道路上に駐車した方が合理的である」とでも言っているようである。

市議会を見学して驚いた。人口 8 万弱の城陽の市議が 20 人、人口 17 万のバンクーバーが市議 7 人で全てボランティアという。制度がどう違うのか、英会話力不足から詳細を把握することが出来なかったが、これから少し調べてみたい。



ベサニー・ワイナリーで

ところで、現地でボランティアとしてお世話下さったロータリークラブを初め企業、団体そして個人の皆様方に心よりお礼を申し上げた

い。ざっと数えただけで 3 企業、8 団体、30 人以上の個人にお世話になったことになる。

ポートランドの路面電車 (MAX) のターミナル駅までの送迎車の運転をして下さった元市長 (城陽市名誉市民) ヘイゲンセン氏には頭が下がりました。有難うございました。11 月に来城されるバンクーバーの皆様方を心より歓迎するために、微力ながらお手伝いできることがあれば少しでも恩返ししたい。



市役所レセプション 記念品授与

7/4 (土) のアメリカ独立記念祝賀、姉妹都市提携 20 周年祝賀そして 21 時 30 分過ぎに始まる花火大会を頂点に、コロンビア川沿いの 2 つの滝、ボンネビルでのチョウザメとの出会い、バンクーバー砦、市立図書館、アートウォーク、ファーマーズマーケット、ベサニーワイナリー、クラークカレッジ、城陽噴水開所式、市議会参加・見学そして各種レセプション・・・等、実に充実した 7 日間であった。日系通訳の一人から、こちらのバンクーバーも、カナダのバンクーバーもイギリスの同じ探検家が名付けたと聞き、歴史にも少し触れた感がありました。

最後になりましたが、途中のハプニングにも冷静に対応下さった団長、副団長、事務局長、事務局員の 4 名の方々に厚く御礼を申し上げます。有難うございました。



エッジフィールドでの昼食

『人生で貴重な体験に なりました！』

大平 歩

米国バンクーバー市訪問団には城陽市に引越した記念に参加しましたが、城陽市に来て良かったと思えることの一つになりました。

バンクーバー市の議員の方が私に親しく話しかけてくださったことや、滞在中においしい食事を提供していただいたことなどが有難かったです。

市役所でいただいたガラスの工芸品は今回の旅を時々、思い出せるように家のピアノの上に置きました。



信越化学提供 ウェルカム・レセプション

独立記念日の祝賀で太鼓を叩いていた可愛い男の子と握手したことや、アサイさんのお家の

ディナーに招待していただいた時に居たペットの犬のペースと仲良くなれて別れなくなかったことなど、思い出が沢山あります。



バンクーバー砦基金提供 旧赤十字ビルでの昼食

私はベリーが好きなのでバンクーバーの食事にもいつもベリーがあって、そこら中にベリーがなっていたことも楽しかったです。

アメリカに行ったのは初めてで、英語も全然出来ないのに、緊張していましたが、バンクーバーで出会った方々が丁寧に話してくださったので思ったよりお話しをすることが出来て、とても嬉しかったです。

私はもっと英語を勉強してもう一度アメリカに行くつもりです！その時はまた今回の訪問で出会った方々、特にアサイさん一家に会いたいです。

城陽市と米国バンクーバー市がいつまでも仲良く交流出来たら良いと思います。



独立記念日メインイベントに参列 (Independence Day Celebration)



ステージからスミス市長代理に、姉妹都市訪問団の紹介をされ、観客の歓迎拍手をうけました。



「Portland Taiko」チームの和太鼓の演奏。後半は「天照大神」の物語を主題にした迫力の演奏を鑑賞しました。



バンクーバー市訪問団 バンクーバー市民との交流会

岸本 秀子

オレゴン州のポートランド空港に到着した我々は、バスに乗って、ワシントン州のバンクーバー市へ向かいました。バスの中でガイドさんが話してくれました。オレゴン州は消費税がない州で、ワシントン州は消費税が日本と同じ8%かかるらしく、州が違えば消費税のあり方も違ってくと・・・！買い物するのなら消費税がかからないオレゴン州でしたほうがお得だと教えてくれました。



マルトノマの滝で

マルトノマの滝は緑が多くて豊かな美しい所でした。マイナスイオンをたくさん取り込んでとてもリフレッシュできました。滝のところまで行く道はとても歩きやすく散歩がてら歩いていたら、ちょうどいい運動になります。

ガイドさんが話してくれました。「アメリカ先住民の間には、滝に関する伝説があるらしく、伝説によれば首長の娘は崖に登り神に祈り捧げたら、伝染病の病を食い止めることができると信じられていた。ある日伝染病が村全体にはやり、首長の娘は崖から身を投げて死んでしまった。」という悲しい話をしてくれました。

バンクーバーの砦・三吉記念碑見学

音吉 岩吉 久吉の三人は船乗りで、彼らが航海中ひどい嵐に会い、14か月の間、漂流して、アメリカのワシントン州のフラッター岬というところにたどり着いて助けられた。日本人で初めてアメリカの土を踏んだのはこの(音

吉 久吉 岩吉) 三人の船乗りだった。その三人の記念碑がバンクーバー国立公園に建てられている。緑が多くて広々としている所にある記念碑の前で写真を撮りました。この石碑は、近々移動される予定だそうです。



バンクーバー砦ゲートへのアプローチで

そして夕食は、親善大使のフジオカファミリーと一緒にメキシコ料理をお腹いっぱい食べて、フジオカファミリーも喜んでくれて、とても楽しいひと時を過ごしました。

4日の独立記念祝賀 オープニングイベント花火はとてもきれいで感動しました。あんなに大きくて、素晴らしい花火は見たことがありませんでした。ふと花火の下を見ると地面が燃えていました。それもこちらから見るととても幻想的な風景で、「わざと燃やしているのかなあ」と思いました。でもあとから聞くとあれは熱波によるハプニングだったようです。でも大事に至らなくて本当によかったです。

私は、ワインは飲めないのですが、ベサニーワイナリーには、あまり行きたくなかったのですが・・・！でも行ってみてよかったと思いました。とても広々としていて、きれいな花が沢山植えてあって、大きな池があって、その池の中にあずまやがあって、写真を撮ったり、涼んだりして、その中で食事をして、マイナスイオンを胸いっぱい吸って、とても気持ちがよく、すがすがしい気持ちでホテルに帰りました。

ちなみにベサニーワイナリーのベサニーは奥さんの名前を付けたらしいです。とても愛妻家で羨ましいです。

最後の日、クラークカレッジの中はとても広

くて、日本人から送られた100本の桜の木や梅の木などが、たくさんあって、もっとゆっくり見学したかったのですが時間がなくて残念でした。学生たちもこんな緑の多い、立派な学校で学べるのはとてもうらやましことだと思いました。

最後に、市役所の裏庭にこの20周年を記念して城陽噴水というものを作られたそうです。その開会式が行われて我々も参加しました。この交流イベントを準備してくださった方々と城陽噴水の前で写真を撮って、最後のお別れを

しました。

本当に街を挙げての歓迎を受けて、みんな感謝感謝で大喜びでした。

食べ物もとてもおいしくて、ビッグで、なんだかいつも食べてばかりで、空腹になった時がなかったみたいで、日本に帰って体重計に乗るのが怖かったです。

何もかも（いいこと、悪いこと全部ひっくるめて・・・）初めての経験で「とてもいい経験をした。」と思っております。本当にありがとうございました。



バンクーバー砦 (Fort Vancouver)

1825年に毛皮貿易を行っていたイギリスのハドソン・ベイ・カンパニーの砦として建てられました。会社は1830～40年代にモンタナからハワイ諸島までを勢力圏に収めていました。砦の名前はイギリス人冒険家キャプテン・バンクーバーにちなみ、現在では砦の多くが再建されています。城陽市鴻ノ巣山運動公園に砦のレプリカがあります。



公園サービスのシャイン氏と
長官の旧邸前で記念撮影



所長のフォートマン女史と三吉記念碑前で記念撮影



三吉記念碑

1834年11月、嵐のために漂着した音吉・久吉・岩吉の3人が、インディアン部落で奴隷となっていたのをイギリス船が救いだし、砦内で数か月間保護されたこと印す記念碑です。

バンクーバー市訪問の旅に 参加して

近藤 好廣

今回の、国際交流協会の2015年度市民訪米団の一員に参加させて戴けたことを心より感謝いたします。出発から帰国までの長い日程を恙なく送り、素晴らしい交流と観光(「普通の」ツアーでは経験できない)を企画、お世話下さった協会の辻 団長以下流暢な通訳を果たされた大久保さん、私達の引率の采配や連絡及び写真にと、こまごまとお世話くださった蓮佛さんには深く感謝申し上げる次第です。更に、現地での大勢のロータリークラブの方々を始め、市の議員さんの周到かつ熱烈な歓迎には私の生涯の思い出であると共に、国は変わり言葉は判らなくても心と心の付き合いは、人間として共通のものであると痛感した次第です、以下私の感じた事柄を箇条書きにしてみると。

①道路が広く街を碁盤の目に走っている。京都に似ており、早朝一人で地図なしに歩いたがホテルは迷うことがなく戻れた。

②街は美しい森やフィールドにあふれ、きれいであった。



ベサニー・ワイナリーで

③道行く人々の大半は私にも声をかけ挨拶を交わしてくれた。

④市立図書館では返却された本の洗滌と自動選別が目をひいた。

⑤ポートランドへの電車は無人運転の上改札もなく乗り降り自由、さらにシニア割引とは驚く。ポートランド市では市電として市内を縦横に

走っていた。

⑥花火自体規模は小さかったが特別席を用意され、枯芝生が花火により燃え広がっているのも初めての経験であった。翌日のThe Coloumbian 紙にはワシントンに例年より早い山火の記事がこの花火大会と共にのっていた。また同じ紙面に“日本の弾丸列車に火事緩んだセキュリティ”として6月30日の小田原での新幹線自殺男の記事が写真入りで載っていて日本のニュースの扱ひも興味深かった。



ホーム・ピジット スタントンさん宅

⑦これだけ樹木や緑の多い街に蚊に一匹も出逢わなかったのも日本では考えられないことであった。矢張りからっとした気候のためだろうか。

⑧ポートランドからシアトルまでのフライトでアメリカの広大な大地に圧倒された。かの地の人も大柄であり食欲も旺盛である。出される食事量も多くとても全部は食べきれなかった。こんな国の人と戦をしても勝てれるはずがないと改めて知った。外国へ行って初めて自国の良さも認識出来るとともに草の根交流の大事さを痛感した。

以上

..... 🇺🇸 ポートランド (Portland) パイオニア・コート・ハウス・スクエア



雨傘をさす男性像



城陽市国際交流協会 2015年度 市民訪米団に参加して

杉井 和男

姉妹都市提携 20 周年記念
(米国バンクーバー市訪問団)
7月2日～7月8日(9日)

2日の早朝、奥田市長の見送りを受け、公用バスで伊丹空港に向けてスタート。

バンクーバー市訪問は初めてであり、長い時間のフライトと英会話が出来ない不安、そして、知らない文化との対応に、多々、不安が覆いかぶさっていました。

余談ですが、韓国慶山市の場合は、近い事と、同じアジア圏の気安さからか、さほど不安は感じなかったです。

やっと到着しました、オレゴン州ポートランド空港。

案の定、眠れなかった反動と、時差による体調の変化に対応できず、今から始まる姉妹都市交流の期待が交差して体が重い。

大きなバスに乗って、日本語ガイドのヤタベ氏の説明で、二つの滝と壮大なコロンビア川にある水上家屋を見て、神の橋を渡りワシントンバンクーバー市に入りました。

17時、これから5日間宿泊するヒルトンホテルに到着。



ホテル前には、緑いっぱいのエスターショー

トパークと、パンフレットで見た、時計台を眼にした時、なぜか気持ちが落ち着きました。

さあ、姉妹都市交流がスタート、訪問団のみなさんについて行こう。



頂いた行程表を見ると、タレント並みのハードなスケジュールであり、いささか疲れが蓄積していましたが、バンクーバー砦、市立図書館、ワイナリー、クラーク・カレッジ、市役所での城陽噴水の開所式、そして巨大なモールでのショッピング等、精力的にこなすことができました。

3日目の20周年記念と独立記念祝賀における、和太鼓と花火、そして、4日目のロータリー会員(カトリン・スミス)宅での夕食には、感激と感謝をしています。

1857年1月23日にバンクーバー市を設立して、約158年が経過していますが、それ以前からの、自然にあったろう大木が散見され、碁盤の目の広い整備された道路と、コロンビア川を中心にした、緑を愛し、自然と共存していく市民の配慮が伺われました。

また、数々の歴史のある建造物が、美しい状態で保存されており、1948年以來の遺物の研究で、フォートバンクーバーの再建が進められており、街づくりに対する市民の高い歴史認識を感じ取ることができました。

未だに、印象に残っていることは、何もかも、ビックでありました。

大自然、鉄道の車両数、食事の量・大きい人・道路・家の庭・公園など、すごいです。そして、軽自動車・バイク・自電車など、軽車両は、ほとんど見かけなかったことも。

最後に、旅行中、71歳の誕生日を祝って頂き、誠にありがとうございました。

それと共に、アクシデントにおける、冷静な対応、そして、期間中の数々の心配りと、お世話をいただきました、城陽市国際交流協会及びロータリーの皆さん、お疲れ様でした。

大変感謝しております。ありがとうございました。



MAGENTA THEATER

ボランティアのロバートさんがオーナーの小劇場を特別に案内してくださりました。訪問団メンバーも舞台上で“故郷”を合唱！



ファーマーズ・マーケット (Vancouver Farmers Market)



マーケットはエスター・ショート・パーク沿いの通りにあり、新鮮な生産物、食材、花、焼き菓子、アクセサリーなどのお店が並んでいます。



ベサニー・ワイナリー (Bethany Vineyard and Winery)



カサブ氏と社会長

オーナーの奥様ベサニーさんの名前をつけたワイナリー



城陽市国際交流協会 2015 年 市民訪米団に参加して

杉井 正子

主人に誘われるまゝ、バンクーバー市訪問団に参加しました。

「バンクーバー砦」が鴻ノ巣山運動公園にあり何度か孫と行ったな～。そのバンクーバーに行ける、出発が楽しみでした。



バンクーバーの気候は湿気がなく最高、緑が多く、心も体ものんびり、ゆったり感、広い道路幅も魅力かな、市民が少なく思えました。

言葉の壁に、ドキドキ。一週間、テレビのない新聞のない生活が出来ました。

ロータリー会員カトリン・スミス宅で夕食・歓迎に感謝感謝がうまく伝えられず笑顔が引きつっていたのでは・・・。



議会に案内、市議の人数にびっくり、子ども連れに二度びっくりでした。

城陽市国際交流協会及びロータリーの皆さんのお世話で楽しく過ごせた一週間、この旅で知り合いになれた参加者の方々、本当にありがとうございました。

お世話様になりました。



ピアソン飛行場 (Pearson Field) /

ピアソン博物館 (Pearson Air Museum)



1905 年開港で現在アメリカで操業されている一番古い空港です。

隣接するミュージアムでは、飛行機開発の歴史を写真や実物の開発機、レプリカなどで展示しています。



姉妹都市バンクーバー訪問所感

土居 一豊

○企画に関する感謝

国際交流協会関係者の事前準備は大変であったとお察しします。

現地での打合せも完璧で私達の案内に感謝します。

○バンクーバーで感じた事項

1. 市民挙げての歓迎

(1) 前市長・元市長も出席

到着したポートランド空港で元市長を含む歓迎委員会のメンバーによる出迎えを受け、また、色々なレセプションでも元市長・前市長が揃っているなど、城陽では目にすることができない光景から日本とアメリカとの政治文化の違いを感じました。



レビッド市長と共に

日本であれば、前市長や元市長が歓迎会に同席するようなことは考えられないことであり、まして元市長による空港での出迎えなどあり得ないことです。11月にはバンクーバー市から城陽に訪問団が来日する計画となっています。これから市が計画する出迎え歓迎等の内容が気になるところです。

(2) 多くのボランティアの支援

私たち訪問団に対する全ての支援はボランティアで成り立っていました。前述の前・元市長をはじめとして市議会議員、ロータリークラブメンバー、企業経営者、一般市民の方が、視察場所の案内、通訳、歓迎会場の提供など事細

かく決められていたことに感銘しました。また、宿泊したホテルのフロント横で毎日、ボランティアの打合せを市の職員が行っていたことに市の取組みの深さと活発なボランティア活動を感じました。

(3) 自然との共生

カナダから太平洋まで流れるコロンビア川沿いの国立自然公園内にあるチョウザメの養殖場、発電所ダムや自然の滝を見学しましたが、建物が殆ど無く、広告看板は皆無で緑が多く、大自然の中に公園や養殖場、発電所があるのを確認して、自然をそのまま残すことに力を入れていることを感じました。特に3本あった落差50m以上の滝の近くには、日本では普通に見ることができる多数の土産物店や広大な駐車場、色とりどりの案内看板が無く国と州による規制の徹底を感じました。

2. 歴史的建造物の保存再建

バンクーバー若は、1825年当時の建物が現在再建中でしたが、その付近には、建築物保存地区があり、1850年から1906年の間に建てられた21軒の家が市の保護政策のもとに管理され美しい状態で保存され、使用されていることに感心しました。

アメリカは1776年7月4日の独立宣言から400年に満たない短い歴史の中で後世に歴史と文化を残す努力をしていると感じ、私達日本人も後世に残すべきものを今一度確認しなければ開発の名のもとに大切なものを失ってしまうのではないのかと思うものです。



歴史的建造物 オフィサーズ・ロー

3. 安全を優先した施策

(1) 公園と子供の遊具

宿泊したホテル前の公園がとても安全なつくりになっていました。園内に配置されている石で「座ることができるようになっていて、子どもが転んで身体を打ち付ける可能性のあるもの」は全て面取りがしてあり、休憩用のベンチも角が無いつくりとなっていて、ケガをしないように工夫されていました。特に、公園内にあった遊具は幼児用と子供用に分かれ、広い公園の中でも遊具エリアには柵があり、付き添う親ものんびりとベンチで見守ることができるようになっており安全への配慮を感じました。さらに、遊具のあるエリアの地面は全てクッションフロアが敷かれ、ブランコの付近は木製チップがふんだんに敷かれ、転んでも、また少し高いところから落ちても衝撃が少なく、幼児や子どもに優しいつくりになっていました。このような施策は全米の取組みのようであり、城陽でも取り入れたいものです。

(2) 厳しい入国審査

ポートランド空港での入国審査は、窓口が多くあるにも関わらず2カ所で行われ、他の搭乗者とともに手続きに約1時間かかりました。

チェック項目も多く、顔と両手全ての指の指紋撮影など、テロ防止への取組みの一端のようでした。



市立図書館にて
ジャッキー・スバロック館長より説明を受ける

4. 市民の寄付で建てられた図書館

5階建ての図書館は、土地と資金の一部が寄付で建てられた立派なものであり、それ以上に各階の配置や運営に市民の思いと多くの工夫を感じました。

○子ども目線の本の配置と工夫

子ども、幼児用本棚は、子どもの目線までの高さであり、その奥には、子どもに考えさせる遊具があり、本の検索とともにその場所で親子がゆっくりできるように工夫されていました。

○半分は市民憩いのスペース

それぞれの階の半分には数多くのパソコンが置かれ、誰でも1時間は自由に勉強や検索に使用できるようになっていて、多くの市民が利用していました。

○工夫された返却本整理

図書館の一角に返却された本がベルト上を流れているのを見て、どのようになっているのか確認したところ、蔵書にICチップが貼り付けてあり、ベルトコンベアでの自動振り分け整理ができる仕組みとなっており、早く確実に行う工夫を感じました。

○飲み物自由ゆっくり利用

長時間ゆっくりと利用するために飲み物も必要です、一階にドリンクバーがあり、館内はどこでも自由に持ち歩くことができるようになっていました。

城陽市の図書館は、どこも本で溢れ、座る椅子も無く、飲み物も禁止でゆっくりと調べ物や勉強ができない現況に大きな違いを感じ、図書館を利用して頂くためには何か工夫も必要であると思うものです。

今回多くのことを見聞き勉強になりました。文化の違いがありますが、アメリカは目的意識を確立している国だとの思いを強く感じた訪問でした。

.....
 市立図書館
 (Vancouver Community Library)



「バンクーバー市姉妹都市提携 20周年記念市民訪米団」に参加して 西田 和子

まず始めに、今回このような記念すべき年に同行させていただけた事を、とても嬉しく思っております。

さて、この応募を知った時、躊躇なく参加したいと思い家族の了解も得ました。

その理由としては、(1) 国際交流協会の行事に参加させていただく中でバンクーバー市に興味を持ったこと。(2) 海外旅行が好きであったこと。(3) 城陽市に居を構え、年令の半分以上を越える 43 年間にこの地で生活する中で愛着を感じ、年令よりみて最後のチャンスかも知れないと思ったことでした。

しかし、平凡な一市民である私が訪問団の一人として適しているのだろうか一抹の不安もありました。

兎も角、7月2日に役員・事務局3名、協会参加者12名そしてソロプチ8名の計23名が真っ青な空の下ポートランド空港に到着し、20年前提携にご尽力して下さった元市長ヘイゲンセンさん等の笑顔での出迎えを受け、市役所に隣接するホテルに入りました。



ホテルでの朝食

5日間にわたる諸行事の中で、市役所、ロータリー、日系企業、ボランティアの方々の心暖まるおもてなしや親しみやすさに感激しました。特に感心したのは、京都市城陽市からの訪問という事で、随所にその箇所が見受けられたことです。

例えば、食事をする際のすべてのテーブルに日本人形が飾ってあったり、市役所ロビーには両市の児童絵画が展示されてもいました。又、私が訪問したお家のリビングには、城陽の花のしょうぶが生けてあったのですが、おもてなしの心に感心しました。

そして、各所の見学や皆様と接する中で、日米の歴史の一端や、バンクーバー市について教えていただきました。



コロンビア川の景色

バンクーバー市の人口は城陽市の倍以上の約16万人位だそうですが、広大な土地と自然豊かな美しいところでした。オレゴン富士と言われる雪を頂く美しい Mt.Hood (3429 m) が遠望出来、カナディアンロッキーのコロンビア氷河を源に街中を悠々と流れるコロンビア川は特に素晴らしい景色でした。

諸行事の中で特に印象に残ったことの1つは、7月4日のアメリカ独立記念祝賀にコロンビア川の対岸で打ち上げられた豪華な花火でした。何万人という多くの市民の方が、花火やコンサートを見に来られて、思い思いに楽しく祝っておられたことです。

印象に残ったもう1つは、幾組かに分かれて現地のお宅を訪問して、夕食をご馳走になったことです。私達4人が寄せていただいたロータリー会員の郊外にあるお宅は、お屋敷でした。そこに知人の方も合流され、アメリカらしいフレンドリー溢れるおもてなしでした。テラスで前菜を頂戴してからのディナーでしたので、全部戴くことが出来ず申し訳なく思いました。



ホーム・ピザット スタントンさん宅

しかし、デザートにビールで作られたという
自家製ケーキは、私にとって初めて食べるもの

でしたが美味しく完食しました。

同行した方々と親しくさせていただき、又歴史を学び、色々な経験も楽しく本当に素晴らしい旅となりました。

辻団長、森澤副団長、協会の大久保様、蓮佛様、そして同行の皆様ありがとうございました。

今後は協会主催の英会話教室への参加を通して、少しでもスキルアップを願い、老令ではありますが出来る範囲で係っていければと念じております。

了



独立記念祝賀イベント (Independence Day Celebration) /
花火 (Fireworks Display)



午後 10 時過ぎに花火の打ち上げ開始。用意していただいた特別席は見やすいようにテーブルとイスだけのセッティングに変わり、間近で素晴らしい花火を観覧させていただきました。



ステージではライブ演奏



バンクーバー市訪問団に参加して 三好 榮子

バンクーバー市は、コロンビア川流域の緑が多く自然豊かな市で、公園や道路も広く、美しい街でした。

図書館もすばらしく、ゆっくり読書を楽しんだり、パソコンも自由に使え、子ども達も遊びながら学べるスペースがあるという、憩いの場のような雰囲気でお好きにはうらやましい施設でした。



バンクーバー岩基金提供 旧赤十字ビルでの昼食

また、バンクーバー岩での姉妹都市提携 20 周年記念とアメリカ独立記念日の祝賀イベントでは、ステージでの太鼓演奏、ライブ、最後は盛大な花火と 4 万人の人々と一緒にエキサイトして楽しみました。

また、ロータリー会員カトリン・スミスさん

のご家庭では、心温まる歓迎をしていただき、ご夫妻はじめご友人の皆さまとおいしいお食事におしゃべりに楽しいひと時を過ごしました。

今回参加してみて、いろいろな発見や新しい出会いがありました。出かけてみなければわからないドキドキ、ワクワク感も味わい楽しめました。



クラーク・カレッジ レセプション

訪れる人々を「おかえり」って出迎えてくれる、そんなやさしくて温かいすてきなバンクーバー市、これからも両市の交流が深められますように願っています。

この歳になってこのような経験ができたことに深く感謝しております。

お世話して頂いた皆様、訪問団の皆様本当にありがとうございました。



クラーク・カレッジ (Clark College)



ボブ・ナイト学長が校内を案内

クラーク・カレッジは 1931 年に設立されたワシントン州で最も古いコミュニティ・カレッジの 1 つで、バンクーバーの中心に位置しています。美しい自然に囲まれたキャンパスには、約 24,000 人の学生が在籍しています。



米国バンクーバー市訪問の旅

森澤 博光

私は、USA バンクーバー市へは、今回7回目の訪問でした。今までの6回はロータリークラブ会員としての訪問でした。しかし、今回は城陽市国際交流協会理事と京都城陽 RC メンバーとして、市民訪問団の副団長としての参加でした。

今回特に感じたことは、バンクーバー市の受け入れ体制が、きちりと出来ていて心温まる「おもてなし」を受けたことです。これは、相前から受け入れ準備委員を決めて、通訳、ガイド、バス運転手などの仕事を、多くの市民ボランティアの協力を得て、みなさんの心温まる歓迎を受けました。

特に、ブルース・ヘイゲンセン氏、エリー・カサブ氏、ジャン・アサイさんらのバンクーバーロータリークラブメンバーが多くので関わり、中心的役割を果たされているように思いました。今後、バンクーバー市の方が来日される際には、京都城陽 RC も頑張らなくてはならないと痛感いたしました。

印象深かったことは、3日目、7月4日 米国独立記念祝賀の花火大会のすごさと盛り上がり感に感銘を受けました。



プランニング・チームのメンバーと歓談

4日目、7月5日 訪問団5班に分かれて、ロータリーメンバーの家へ夕食のお招きを頂きました。私は、大平さんとソロプチの高橋さん、岡本さんと4人でジャン・アサイさん宅へ行きました。まず、お宅拝見ツアーがあり、いたる

ところに日本の書や和風家具等があり、本当に日本を愛してくださっているんだなと感じました。食事は、お肉、サーモン、ワインやごはんまで用意して頂き、楽しい会話と食事で素晴らしいひと時を過ごさせて頂きました。



ホーム・ピジット ジャン・アサイさん宅

また、ロータリークラブとして、例会出席と来年行う予定の「青少年交換留学事業」の打ち合わせも出来ましたので、有意義な旅行になりました。



ロータリー・クラブでの打ち合わせ

辻団長、大久保様、蓮佛様には、色々とお世話になり本当にありがとうございました。また、ご一緒に楽しい旅をさせて頂いた皆様に、心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

.....
市電 MAX でポートランドへ



バンクーバー市訪問団に参加して 渡辺 理一

最高の旅を「ありがとうございました！」訪問団に参画された皆様にお礼を申し上げます。長期間にわたり、企画～準備～実施に大変お世話になりました JIEA の皆様、現地では特に辻団長や森澤副団長やスタッフの方々には、代表団の顔と我々メンバーの引率/統率にご苦労いただき、我々メンバーは安心して楽しい旅を満喫できました。バンクーバー市の受け入れは、現/旧/幹部の皆さんやロータリークラブを始め、外郭団体や私企業やボランティアの皆さんと正に官民あげての大歓迎で驚きました。市役所の歓迎委員会メンバーは、ホテルの入口フロアにデスクを設け、我々がホテル在中は常駐し対応してくれていました。見学の移動時は、市の小型バスが使われましたが、特定の運転手ではなく、旧幹部や市議の方々が代わる代わる運転されていたので、驚くと共に恐縮でした。多くスポンサーから「おもてなし接待やお土産」も頂き、「おもてなし文化」の違いを感じました。通訳には日系3～4世の若者の支援もあり、参加者全員が沢山の企画を無事乗り越えましたのは、誠にありがたい事でした。

全ての感謝と感動は A4 紙に書ききれませんが、一部、強く印象を受けた事を記述いたします。



コロンビア川に建つ水上住宅

ポートランド空港の出迎えから「おもてなし」は始まりました。バスに乗り込み州境の大河コ

ロンビア川の左岸オレゴン州側の上流へ出かけ、3か所の観光スポットに案内されましたが、滝壺前に橋の掛った壮大なマルトノマ大滝の景観が一番印象に残っています。夕方、ヒルトンホテルに入り、2時間ほどの休息後、ホテル内で歓迎夕食会が開催され、緊張気分で出席しました。訪問メンバーとも旧交の人達が多いようで、あちらこちらでハグや握手が交わされる和やかな雰囲気でした。市長が出張不在の為、代理の方から歓迎の挨拶、辻団長の答礼挨拶の後、美味しいビュッフェ料理とワインを頂いて、堅苦しい感じはなく、何とか最初のパーティーを乗り切りました。



信越化学提供 ウェルカム・レセプション

二日目午前中、バンクーバー砦を見学、歴史的背景を詳しく学び、新しく改装する「三吉記念碑」の計画も聞きました。フロントアプローチには、桜とドッグウッドを交互に植える提案もあるそうなので、城陽市から桜は寄贈したい気分になりました。昼食後、州最大の5階建市立図書館で最新の図書館運営を見学後、市役所に移動しロビーでの「児童交換絵画の展示」とコミュニティーとの軽食歓迎会に出席しました。出展絵画の作者の児童が家族と共に見に来るので市民との交流が出来ました。続いて市内アートウォークに出かけ市民の作品やバンド演奏や小劇場などの見聞を通じて、バンクーバー文化の一端を感じる事が出来ました。

三日目午後、「独立記念祭」が開催されるバンクーバー砦公園に移動。Toyota 提供のメインステージの客席に参列し、会場の皆さんに訪問団が紹介され、Portland-Taiko チームの素晴

らしい和太鼓演奏や「気合」の掛け声を観客の皆さんと一緒に掛け合い盛り上がったのが印象的でした。また、約30分強でしたが、素晴らしい花火を真近で鑑賞した時は感歎の連続でした。



ホーム・ビジット デュディクさん宅

四日目のワイナリーでは、広大な庭園とブドウ畑と、試飲を含むビュッフェ昼食を楽しませていただきました。夕刻、5班に分かれ、ロータリー会員宅に招待されました。女性市議夫妻も合流され暫くの歓談後、美味しい家庭料理を庭のデッキの大テーブルの着席スタイルで頂き、皆さんとの会話も盛り上がりました。特に奥様にはお世話になりましたが、非常に暖かい歓迎でした。



元城陽市のAETで親善大使のスージー・フジオカさんと再会

五日目はクラークカレッジの見学と昼食会后、市役所に戻り最終行事に参列しました。市長からの歓迎挨拶、市庁舎の案内を受け、庭園での「城陽噴水の開所式」に向かいました。噴水は丘陵地から流れ出た水が少し流れて池に流れ込む日本庭園の噴水イメージでした。市議会議場は、中央の市長と両側に各3人の市議の雛壇があり、我々は傍聴席中央に参列しました。議案の中で市長から訪問団紹介と将来へのメッセージがあり、JIEA 代表の辻団長と議会副議長の土居さんは、議場内の応答席から答礼のメッセージをされ、20周年の交流の重さを感じました。



城陽噴水の開所式 (Dedication of Joyo Fountain)

バンクーバー市役所の庭園に設置された姉妹都市提携20周年を記念する噴水。開所式には、市会議員、ロータリー会員や市民の方々も参列されました。



城陽噴水の前にて記念撮影

Proclamation (声明文)

2015年7月6日バンクーバー市議会訪問の際に、バンクーバー市長より姉妹都市提携20周年記念に対するの声明文をいただきました。



7名のバンクーバー市会議員



異なる国、文化の人々との友情は平和、平安、調和、そして理解を生み出す強い力である、

バンクーバー市は市議会を通して1995年10月に姉妹都市プログラムを制定し地域住民と日本の城陽市の人々の永続的な友情を確立した、

2015年は我々の姉妹都市関係と日本の城陽市に住む人々との永続的な友情の20周年を記念する、

バンクーバー市の姉妹都市関係は、バンクーバー・ダウンタウン・ロータリー・クラブとの協働のもと、興味やコミュニケーション、理解を広げるによりバンクーバーの経済的、社会的、文化的そして教育的な結びつきを強めている、

我々の継続的な姉妹都市関係は我が市民に豊かさ、多様性、そして相互の教育的機会を与えている、

「自然の美しさと平安の場所（緑と太陽・やすらぎのまち）・城陽市」は日本の二つの古都、京都と奈良の間に位置し、その天然資源を最大限に利用して、活気があり、快適で便利な住宅地区になった、

城陽市からの派遣団が我々の長期にわたる友情を祝うために訪問した、

バンクーバー市議会は城陽市と姉妹都市関係20周年を記念し、バンクーバー市と世界の他の都市との国際貿易や観光、経済的発展を奨励し続けていく、

したがって、私、ワシントン州バンクーバー市長、ティモシー・D・レビットは城陽市との継続的な友情を認め、全ての市民がこの特別な評価の共有を奨励します。

その証拠として、この2015年7月6日この文書に署名しバンクーバー市の標章を貼ります。

市長 ティモシー・D・レビット

姉妹都市提携 20 周年記念
米バンクーバー市訪問団
参加者名簿

氏 名	備 考
辻 文明	団長、協会会長
森澤 博光	副団長、協会理事
土居 一豊	市議会副議長、協会会員
池井戸 光代	協会会員
上土 新一郎	協会会員
大平 歩	協会会員
岸本 秀子	協会会員
近藤 好廣	協会会員
杉井 和男	協会会員
杉井 正子	協会会員
西田 和子	協会会員
三好 榮子	協会会員
渡辺 理一	協会会員
大久保 雅由	協会職員
蓮佛 明子	協会職員

「国際ソロプチミスト南京都」訪問団
参加者名簿

氏 名	備 考
乾 輝美	協会会員
井上 美知子	協会会員
岡本 悦子	協会会員
北澤 扶三代	協会会員
高橋 玲子	協会会員
戸田 慶子	協会会員
村田 淳子	協会会員
脇田 明子	協会会員



バンクーバー市長及びシティ・マネージャー補佐の
ジル・ブラウンさん
訪問団受入れの準備段階から滞在期間中も大変お世
話になりました。



あとがき

今回の訪問は 2014 年秋に協会から「姉妹都市 20 周年を祝して訪米団派遣を計画したい」との要望に応じて、双方で訪問時期の調整を経て、レビット市長から「7 月 4 日の独立記念祝賀花火大会にあわせて来訪してください」との招待を受けることで始まりました。

募集に先立ち、航空便と宿泊、いくつかの行程の希望などを伝えたところ、バンクーバー市では受入準備チームを作って検討してくれていることを知り、そのメンバーや行程案が伝えられました。バンクーバー市では米国での規則で、市が姉妹都市交流の財政負担ができないのでいつも苦勞されていますが、準備チームに入っているロータリー・クラブ、クラーク・カレッジ、コロンビア川経済開発協議会、実業家カサブ氏とともに、その他にも米国信越化学、国立公園サービス、ダウタウン協会、バンクーバー砦基金、ファーマーズ・マーケットなど多くの団体が協力してくれていることが分かりました。

現地に到着すると市役所・市議会が中心となり、これらの団体、そしてボランティアの案内、通訳、運転手など、市職員ジル・ブラウンさんからもらった連絡名簿には 76 人もの方が載っており、滞在した 6 日間は行く先々で沢山の方々と出会い、素晴らしい交流を経験することができました。

レビット市長、ハイゲンセン元市長、市議会やロータリー会員（各種団体メンバーとの重複多数）等が大変なご尽力されていることがわかり、深く感謝いたします。

参加された皆さんとはこのように、バンクーバー市のコミュニティによる温かいおもてなしと、人やコミュニティの力を大切にしている街の姿勢を共に感じられたのが、今回訪問した一番の思い出となりました。

JIEA 事務局 大久保 雅由、蓮佛 明子

Celebrating
100 Years

Hill100

Hill100



編集・発行：JIEA 城陽市国際交流協会

〒610-0121

城陽市寺田西ノ口7-4 西邦ビル2階

TEL :0774-57-0713

FAX :0774-57-0714

URL :<http://www.jiea.jp/>